

知事と区市町村長との意見交換（足立区）

令和1年10月1日（火）

17時30分～17時50分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 近藤区長には都庁まで御足労お掛けいたしております。今日は長期戦略を策定ということで、ビジョンの策定に足立区の御意見をぜひと思ひまして、この機会を設けさせていただきました。時間は短いのですが、どうぞこれからの足立区の将来展望であるとか、また喫緊の課題であるとか、お聞かせいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは近藤区長、よろしくお願ひいたします。

○足立区長 今お話のございました重点政策方針2019を拝見しまして、非常に東京らしさが溢れていて、読んでいても元気になるような内容で大変結構だというふうに思うわけですが、これから具体的な書き込みがなされるだろうというふうに思うんですけども、その中でまずここから2点、事前にはちょっとお話ししていないんですけども、今回まず1つは、都庁のデジタル化の推進ということで、5ページにAI、RPA等を活用した業務効率化というふうにございます。

これは、国の方は総務省の方が音頭取りで、各地自体に様々な御提案いただきまして、区もモデル事業で参画をさせていただいて、実際に1年間回してみると一定程度、1,300とか1,500、600時間の時間の短縮にはなるということになってきてはいますけれども、ようやく超過勤務手当の削減に手が付くくらいで、人1人2人というところまでまだ及んでいないということもございます。実際にいろいろ取沙汰されてますけども、まだまだ現実的なところで人を減らすというところまで効果が表れてないだろうということでございますので、これからは国とまた別に東京都も23区なり市部を巻き込んでいただきまして、この各自治体の行政改革の中のAIとかRPAについて、こういったやり方が非常に効果があるのではないかとか、また、東京都と私共の自治体の間の事業について、申請ですとかいろいろございます。そういったところをいかに簡略化できるか。こういったものを応用できるんじゃないかというような、御一緒にモデル事業ができれば大変ありがたいと思っております。

人材の確保というのは、これから私達自治体、東京都、国と取り合いになるような、そんな時代も来るかというふうに考えておりますので、非常にこのデジタル化、AI、RPAの活用については、私どもも真剣に取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、また東京都のとりまとめ、リーダーシップをぜひお願ひしたいと思ひます。

もう1つは災害のことでございます。台風15号の関係で、たまたま7,000人規模の鋸南という千葉県のみちですけども、ここに校外施設がございました関係で、今人を派遣しているところです。

ただ、当初は停電が長引いた関係で、まちと千葉県の連絡が全く途絶えてしまっていて、うちはその校外施設の管理者の方から被害が甚大だという連絡をいただいて、すぐ職員が飛んで行って初めてその現場の御苦勞が分かって、千葉県が入るまでの間を繋いだというようなことがございます。

そうしますと、私どももいざ災害という時に、国や特に東京都さんと自治体との関係、どのように回していくのかということも含めて、まだまだペーパーですとか、計画では耳に入っているけれども実際の動きについては見えない部分もございます。

東京都さんは東京都さんの中で災害の訓練やっけていらして、私達の自治体のメンバーの役割も東京都の職員の方が代わってやっけていただいているということなので、ぜひ実際に私達も参加させていただいて、実際のいざという時の東京都の動きが見える化できるような訓練をやっけていただけないかなと。

見学はできるというには聞いておりますけれども、まだまだ限られた方々だけの閉ざされた訓練。消防庁ですとか自衛隊は入っけていらっけるんですが、ぜひその中に私ども自治体も入っけていただいて、どこが自分達で担わなきゃいけないのか、どの部分は東京都や国の所から助けていただけるのかというような整理を喫緊にしていかないと、今回の千葉県も大変で、全力を尽っけていらっけるんだらうと思うんですけども、かなり末端の自治体との関係というのは後手後手に回っけて、実際は孤軍奮闘しなければならぬようなことを今回鑑みまっしたので、ぜひ訓練については御一緒にさっせていただけないかということ。これが2点目でございます。

3点目は、これは事前にお伝えしてっただ中で、不登校対策ということ。8050について今度、協議会を立ち上げられて、真剣に立ち向かえられるということ非常にありがたいなと思っけております。

ということは、かつて私達もその長期化した引きこもりについて、一度手を入れたことがござっますが、長期化してしまっるといっかんともしがたい、どうしても物事が動いていっかないということと頓挫してっける部分もありますので、足立区も福祉の部長がメンバーに加えさっせていただっけておりますので、ぜひここで突破口を開いていただっけるような方向性へ進んでいっくことをおおいに期待をしてっけております。

足立区は長期化する前の不登校ということと、基本的には不登校特例校ということと、もう既に、直前に入られた八王子さんには1つの学校を不登校のっ子供さん達に全部使うというふうに、特例校になっっているわけとです。やはり数十人のっお子さんに1つの校舎を全部使っけていただっくというのは、23区でもなかなか現実的ではない部分もありまっして、私どもは割と規模の大きかった学校で普通の生徒さんと入口等を、教室を完全に分離できるタイプの学校がござっましたので、1つの学校の中に普通の生徒さんとその引きこもりの不登校の生徒さんを一緒に入れ込むという、足立区版というふうに図々しくも名付けてっけておりますが、不登校特例教室というのを令和2年度からスタートしたいというふうに考っけてっけております。

あくまでも公的なフリースクールの立場とすし、国からも今のところ不登校特例校とし

て認めていただいているわけではないので、仮に人的な人件費の面では私ども何とかするにしても、1つ重要なところは在籍校としてここから卒業ができない、一緒に学んだお子さん達が一緒に卒業式ができないですとか、在籍校で成績が評価されるので、ここの特例校の成績が付かないですとか、様々な課題もございます。

区としては、なかなか一気に不登校特例校にいかないもんですから、段階的であっても、まずこうした足立区版でモデル的にやってみようということです。ぜひ教育長にもお出ましを、始めましたらいただいて、課題等はあるかと思えますけれども、それは御指摘いただければ改善してまいりますので、特例的にこうした1つの校舎の中でのタイプもお考えいただければというふうに思って、今日は資料として提出をさせていただきました。

私からは以上3点、お話をさせていただきました。どうぞよろしく願い申し上げます。前半の2点につきましては、前もってお話してございませんので、今日この場で御回答いただかなくても結構ですが、ぜひ御検討いただければと考えております。ありがとうございました。

○知事 最初のデジタル関係ですね。国もeガバメントということを進めつつあり、また、今回東京都として5Gをベースに、これはもう言うてみれば電波の道をつくろうということですが、ただそれはインフラであって、それをどう活用して働き方、手続き、都民にとってTell Us Once(テルアスワンス)というのは、1回伝えてくれれば皆その後全部やりますよってというのが、フィンランドやエストニア等では行われていて、それによる様々な人件費と言いましょか、人間的な部分のソフトの経費であるとか、それから何よりも時間が短縮される等々、これらについてはしっかり取り組んでいきたいという、その長に就いたばかりではありますけれど。

一方で、いろいろな問い合わせについてはチャットロボット、チャットボットっていう方式を使う等して、いろんな知見を積み重ねているようなところですよ。うまくこれらについては連携しあいながら、お互いに学びながらいろんなビッグデータもそれぞれで持つわけですから、それをうまく、もちろん個人の情報については注意しながら全体の流れを捉えていくということが、まさしくそれは長期的に行うべきことであり、また長期戦略を描くにおいてそのデータが活かせる等、両方活かせるのではないかと考えています。

この点については、例えばプログラムの整備等もしなければなりません、できるだけその融通が利くような形にすることの方が非常にプログラムをつくる経費はばかになりませんので、この辺りはまたいろいろ連携取らせていただいとと考えております。

それから台風の件ですけれども、特に今回は停電があのように長引いたということもありますし、実際に連絡が取れない。阪神大震災の時も一番困っているところはもうぐうの音も出ないというか、もう一家が全滅しているような所はもう連絡が取れないんですね。というようなことで、一番連絡がない所が一番ひどい状況にあるというのは、一定の目安でもあろうかと思えます。

また、そうならないためにはどのようなリスクヘッジができるのかということ、真剣

に考えるきっかけを今回は残してくれたというふうに思います。

そしてまた私は無電柱化ばかりやっておりますけれども、これもコストをどうやって下げるか、また地域によってそういう優先的にやった方がいい所も、足立区にもあろうかと思しますので、いろいろコスト削減そして技術革新、両方の面から進めていきたいと思っています。

いわゆる防災訓練や、またいろいろなリスクを想定しながら、オルタナティブはどういう方法で連絡ができるか等についても、改めて確認をしていきたいと思っています。

それから不登校の問題でありますけれども、この不登校の子供達への支援ということ、非常に熱心にと申しましょうか、引きこもりの件についても足立区の方にも御出席いただいておりますが、場合によっては区長自らヒアリングに来ていただくとか、そういう形で今抱えていらっしゃるこの問題について、登校できなくなった子供達がクラスの友達達と接触することができない、離れた場所である別の学校で学ぶことができるというのが、不登校特例校でありますけれども、従前の学校と同じ施設の中に不登校の特例校を設置することは、文部科学省では現時点では許可しない意向だと。区の不登校対策の充実に資するようにより支援していきたいと思っています。教育委員会の方には相談に乗るように伝えておきますので、まずそこと連携を取っていただければと思います。

今申し上げた引きこもりにかかる支援協議会は、始まったばかりですけれども、これはもう 8050 を1つとってみましても、引きこもりというのはもう年齢関係なく、そしてまた一生の問題になってしまっているということに鑑みて、これまで青少年という部署で対応してたんですけれども、その年齢を外して考えていかなければということで、担当部署を変えたところです。

実態を把握することも必要ですし、足立区にも御参画いただいておりますけれども、ぜひ区長自らこの場で、協議会の方で対応いただいて、引きこもり対策を。

○足立区長 ありがとうございます。部長の代理でわたくしが参ります。

○知事 部長の代理で。

○知事 ぜひ足立区のケース等について、直接対応いただければというふうにも思います。

○足立区長 また何か具体的にモデル事業で立ち上げる際には私どもを使っただいて、ご協力させていただきたいと思っております。

○知事 承知いたしました。

○多羅尾副知事 若干、今の知事のお話を補足させていただきますと、1つ目はやっぱり少子化に伴いまして、自治体の人材確保というのは都区共通の課題だと思っております。やはり IT を活用した少数精鋭主義という方に向かっていかざるを得ないということで、都区共通のデジタル化というのを模索していきたいと思っております。

先日も都の研修所で IT 研修をやりまして、区の方にもお声を掛けさせていただいたところ、区の方は IT の直接の御担当以外にも企画部門の方なんかも来ていただきまして、やはり IT は一部ではなくて行政全体の問題だということだと思っております。これからも都区の協力関係の下、デジタル化を進めてまいりたいと思っております。

それから台風災害、今回の台風災害の一つの今後の検討課題といたしまして、今のシステムとしては対口支援ということで、御案内のとおり1対1の支援ということで、そのパートナーに指定された所を全力で支援するってことは、非常に効果的なことではあるんですけど、全体を見てもっと近くに困った自治体がいらっしゃって、そこのニーズがなかなか見えてこない。まだこちら側に応援の余力もあるのにそこが使われないというような問題がありました。

都でも知事の指示の下、対口自治体以外にもいろんな所にちょっと情報を集めるように、途中から体制切り替えまして、今回対応いたしましたけども、東京都とそれから区市町村自治体全体が被災地に協力できるような体制を、また少し検討してまいりたいと思っております。

○行政部長 区長、よろしいでしょうか。もしよろしければ、まだちょっとお時間。

○足立区長 わたくしの方は先ほど申し上げた通りです。どうもありがとうございます。貴重な時間を設けていただいて、また無電柱化についても、区内にかなりの財源を投じていただけるようなので、大いに事業を進めて、いち早く安全安心な街として頑張っていきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

○行政部長 最後に知事から一言、お願いいたします。

○知事 ありがとうございます。ちなみに無電柱化というのは、計画をつくり始めてから完成するまで少なくとも7年掛かるって。皆さん、それはいいわねと言いながら、うちの前にトランスを置かないでという形で、なかなかその確保が一番重要かと思っております。

ただ、工事等のコストもかなり下げられる見込みでありますので、それらについて近々まずは巣鴨地蔵通りでやってみます。等々、いろんな例を引きながら、とにかくこの件については、他は首都を抱える市は、世界のほとんど100%程なんですけど、もう東京、日本というともうほとんど何もしていない状況ということでもあります。

ぜひ地元の声も重要なので、ぜひこの点についても皆さんに意識から変えていくことに御協力をいただければと思います。今日はありがとうございました。

○行政部長 では意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。